

財団法人 英語教育協議会

平成23年度（2011年度）事業報告

1. 英語教育に関する研究

“Advisory Board”（委員長：小池生夫 英語教育協議会理事長 委員：和田稔 明海大学名誉教授、金谷憲 東京学芸大学教授）を1回開催し、英語教育の現状、『英語展望』のテーマと執筆者、「ELEC英語教育研修会」の構成、テーマ、講師などについて助言をいただいた。

『英語展望』では「小学校外国語活動の可能性を求めて」をテーマに挙げ、2011年度から全面開始となった小学校学習指導要領に基づき英語教育が果たす役割について考察し、連携教育など今後の日本の英語教育の考え方を提示した。

「ELEC情報・資料の収集および分析研究グループ」の研究成果を引き続き『英語展望』誌上で発表した。

2. 英語教員に対する専門的な研修会の開催

(1) ELEC英語教育研修会(The ELEC Seminars for English Teachers)

文部科学省後援のもとに、各1日制の研修会をELEC英語研修所にて下記のとおり実施した。

夏期：7月25日～8月13日	受講者数： 554名（前年584名）
冬期：12月25日～27日	受講者数： 137名（前年144名）
春期：3月25日～30日	受講者数： 247名（前年 地震のため中止）
	合計938名（前期728名）

なお、昭和32年以来の受講者累計は17,033名となった。

(2) その他教育委員会主催 教員研修会支援事業

下記の教育委員会主催の教員研修会を委嘱され、実施した。

東京都八王子市：	1日間	2時間	1クラス	受講者数43名
石川県	： 8日間	34時間	3クラス	受講者数24名
石川県小松市	： 5日間	35時間	1クラス	受講者数11名

3. 一般成人に対する英語講習会等の開催

(1) ELEC英語研修所(The ELEC Institute)

2011年度は前年度と同様のコースを開講した。

開講コースは以下の通りである。

総合英会話コース：

午前部	週2日コース（月水 / 火木）
	週1日コース（火 / 金 / 土）
午後部	週2日コース（月水 / 火木）
	週1日コース（木 / 金 / 土）
夜間部	週1日コース（月 / 火 / 水 / 木 / 金）

ビジネス英語コース

夜間部	ビジネス英語上級コース（火）
-----	----------------

ビジネス英語中級コース（金）

スキル・トピック別コース

ムービー（金）
リスニング（中級）（金）

ディスカッションコース（中～上級）（金）
ディスカッションコース（上級）（金）

プライベートレッスン：

- ・従来の学期制プライベートレッスン
週1回 月、火、水、木、金の午前・午後（1レッスン45分）
- ・非学期制プライベートレッスン
受講回数・曜日・時間等を学期の枠組みにとらわれずに決められる
レッスン（1レッスン45分）

2011年度の研修所の延べ受講者数は以下の通りであった。＊（ ）内は2010年度

春 学 期	82名（123名）
夏 学 期	80名（137名）
秋 学 期	84名（125名）
冬 学 期	79名（116名）
合 計	325名（501名）

本年度の受講者数は前年度を35%下回り、継続受講率は約65%であった。
また、新規受講生は48名（前年度150名、68%減）に留まり、震災や不況の影響、広告削減の影響が見られた。

通常コース以外にも「英語サロン」（無料英語セミナー）を3回実施した。

- ・「日本人講師による 助動詞の使い方」 参加者12名
- ・「Telephone English 日本人の電話はなぜわかりにくいのか」 参加者 8名
- ・「TOEICのための勉強法」 参加者18名

(2)官公庁及び企業研修・大学受託講座

官公庁及び企業研修の「売上」と「実施企業数」は以下のとおりである。

- ・2011年度 総売上(江東区・大学除く)：31,100千円（前年度21,572千円）
内 新規売上：9,151千円（前年度 5,171千円）
- ・2011年度 実施企業数（官公庁含む）：37社（前年度 37社）

継続/新規の内訳は以下のとおり。

- ・継続企業数：20社（37社中20社が前年度からの継続で継続率は54%）
- ・新規企業数：17社（問合せ数は35社あったので新規受注率は49%）
認知経路としては、ホームページで当財団の研修を知ったという企業が多かった。また当財団の顧客企業からの紹介も3社あった。

2011年度に研修が終了した企業数は17社であった。終了理由としては、「地震による研修予算の削減」や「複数年にわたり研修を受け、社員全員が一巡したため」や「内容が異なる新しい研修を社員に受けさせたい」などであった。

今年度と昨年度の研修実施企業数は同数の37社であるが、今年度は一企業あたりの売上が

増加したため売上が増加した。

顧客企業の方向性を確認し、ニーズに合わせた研修内容の構築や定期的なクラス見学等を実施することにより、研修の質の維持・向上に努めた。

研修の依頼理由としては、これまで外国との接点が直接は無かったIT関連企業や製造業企業が、グローバル化の影響で英語が必要になったためというものが多かった。

研修内容に関しては、英語が母国語ではないアジアや南米などの国々とのコミュニケーションを必要とする企業が多く、流暢さよりも簡潔さ・正確さを求める傾向があった。

研修効果の測定については、大企業はTOEICの得点を指標として使うことが多いが、中小企業は仕事現場でどの程度、実際に英語が使えるようになったかを測る適切な方法を模索中の所が多い。

従来のクラス形式の研修と合わせて、E-mailによる添削形式の“By E-mailコース”も引き続き好評であった。

大学からの受託講座については、駒沢女子大学、国立天文台、女子学院を新規受託した他、既存の講座では神奈川大学外国語学部の課外講座が25クラスに増加するなど好調であった。

大学教育市場を新規開拓するためには、実務的な英語運用能力及び大学教育としての基礎力の養成に加え、英語だけではなく国際人の養成につながるような付加価値のある企画が求められている。

(3) 英文添削

本年度の英文添削・翻訳サービスの利用件数は個人6名並びに法人4社であった。(昨年度は個人9名、法人24社)

主な受注内容は 論文の概略、中学/高校教材原稿、美術館/博物館の展示案内であった。受注には至らなかったがホームページ、契約書の翻訳、中国語の翻訳の問合せも数件あった。

4. 英語教育に関する資料の頒布

(1) 定期刊行物

・英語展望 (E L E C Bulletin) 第119号
特集: 「小学校外国語活動の可能性を求めて」

・English Teaching FORUM Vol. 49 Nos. 1, 2, 3, 4

(2) 録音教材

今期の売上は1億3,094万円(予算1億5,000万円: 予算比12.7%減少)であった。

出版社の出版点数の絞り込みに加えて、これまで当スタジオを利用していた顧客が相次いでスタジオ設備を設けるなど、市場競争がますます熾烈になっている。そのため、価格も一部顧客に対しては見直し(値引き)をせざるをえない状況であるのに加え、今年度は大きなプロジェクトの受注がなかったため売上が減少した。

5. 英語教育の研究に対する援助と助言

E L E C 賞

2011年度のE L E C賞は、厳正な審査の結果、B部門のみ1組2名が受賞した。

A部門 該当なし

B部門 受賞者： 飯塚秀樹(自治医科大学看護学部講師) / 長橋雅俊(駿河台大学講師) *
共同研究

受賞論文：Consecutive Interpreting Approachに基づくプロソディー重視の口頭練習が
L2筆記再生に与える効果

本ELEC賞の提供を通じて最新の現場教育の立場と教授法の理論的研究等を収集し、それを「英語展望」へ掲載することにより一層の周知をはかった。

6. 語学教育研究諸機関との連絡協力

大学英語教育学会(JACET)、語学教育研究所、ELEC同友会、全国英語教育研究団体連合会、日本児童英語教育学会等への研究大会に参加し、研究発表に対して積極的に意見交換を行なった。

7. その他の事業

本年度は下記の講演会を行なった。

- ・ 2012年2月 ELEC賞授与式・特別講演会
テーマ：「確かなコミュニケーション能力を育成する英語教育のあるべき姿」
講師：上智大学外国語学部教授 吉田研作 氏
参加者60名
- ・ 2012年3月 Barry Jones 講演会
テーマ：「ヨーロッパ共通参照枠(CEFR)の発展と言語教育」
講師：ケンブリッジ大学特別研究員 Barry Jones 氏
参加者20名